

はじめに

平成 19 年度から始まった全国学力・学習状況調査の調査結果から、本県の児童生徒は、「国語、算数・数学の成績は比較的よいが、国語や算数・数学が好きな子どもは、全国に比べ少ない。」「学校のきまりを守ることや、新聞やテレビのニュースなどへの関心が低く、ルールを守る規範意識や社会性に課題がある。」などの分析がなされてきました。

県教育委員会では、本県の児童生徒に見られる課題解決に向け、平成 21 年度の取組として学力調査活用アクションプラン推進協議会を設置し、同協議会と連携を図って作成した「学力調査活用アクションプラン」に基づいて教科の学習が好きと答える子どもを増やすことを重点にすえ、本年度の取組をスタートさせました。

本報告書は、5 校の推進校が地域や学校の実態に応じて取り組んだ研究の概要と成果を、県内の各学校における取組に役立てていただくことを目的として作成しました。

課題解決には「R－P D C A」の検証改善サイクルに基づいて取り組むことが有効です。このことは、平成 19 年度に作成した奈良県学校改善支援プランでも示してきました。これまで 3 回の調査によって各学校において「R」リサーチができています。

今後、各学校において「R－P D C A」のサイクルを確立し、積極的に学力向上に努めていただくと同時に、本報告書を活用して教育活動のより一層の充実を図っていただくことを期待しています。

平成 22 年 3 月

奈良県教育委員会事務局

学校教育課長 吉田 育弘